

教会月報

No.537 (2023年9月24日)

【2023年10月号】

日本キリスト教団埼玉和光教会

〒351-0114 和光市本町 15-50

静かにささやく声

岩河敏宏

聖書：列王記上 19 章 11 節～12 節

11 主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後には地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。12 地震の後には火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後には、静かにささやく声が聞こえた。

現代においても、過去の歴史を顧みても、世には大きな声や偽りの言葉によってかき乱され、本質がかき消されていることを感じています。

まだまだ暑い日が続いていますが、小羊幼稚園の園庭では明らかに変化が起きています。園庭に散る草や樹木に集まる虫が、変化を教えてくれます。ひと月ほど前までは、蝉が発する音？・声？が夏の暑さを際立たせていました。しかし、今はそれではなく、夕暮れ時にキリギリスかマツムシでしょうか小さく羽を鳴らす羽音？が聞こえてきます。日中の厳しい残暑とは対照的に、昆虫たちが発する涼やかな音色は、お疲れモードの気分を一変させ集中力が復活し、秋の夜長を有効活用させてくれます。

拡声器を通して響き渡る大きな声は、群衆を興奮させます。新聞やテレビの声も、大衆に向けて一方通行の情報を放出することで、多様な感性を一様な（画一的な）声を作ることで、物事の本質から眼を遠ざけます。イエスが十字架に向かう場面（マルコ 15 章 11 節）、パウロとバルナバの異邦人伝道を妨害する場面（使徒言行録 13 章 50 節）から、祭司長やユダヤ人らが群衆を扇動して大きな声を作り出し、神の言葉を語る者を排除したことを知ります。また、イエスが荒野で誘惑を受けられたように、大きな声は外から聞こえてくるだけでなく、自分の内部からも聞こえてきます。

バアルとアシェラの預言者 850 人と一人で戦い、勝利した預言者エリヤですが、主を信じて生きているのは自分一人、さらに命を狙われる状態になります。エリヤは奇跡を期待して忘れてくれない主へ、不満を表明します。冒頭の聖句は、その彼に向けられたものです。主は彼の前を通り過ぎ、激しい風が吹く奇跡、地震の奇跡、火の奇跡を次々に行われたが、いずれの奇跡にも、「主はおられなかった」のです。鮮やかな奇跡的、英雄的信仰を求めるのではなく、私たちの内外に溢れる騒然とした声に惑わされず、わたしの生涯を貫き、わたしを支え続ける力となる主の言葉、「静かにささやく声」を聴き分ける者になりたい。